

再エネプログラム見直しの方向性
ご議論いただきたい論点について
(「地域と共生する、地域が主体となる」関係)

1. 意義について

- 再エネが地域と共生するためには、地域に貢献（地域協働）あるいは地域が実施する（地域主導）事業であることが必要と考えられるが、地域にとってどのような意義があるか。

(1)環境面

例：CO2排出削減や森林保全など・・・

(2)経済面

例：税金や給与など・・・

(3)社会面

例：雇用や産業など・・・

(4)その他

2. 定義について

- 1. のような意義を持つ「地域共生型事業」をどのように定義すべきか。「地域共生型事業」であると評価するための基準や指標はどのようなものが考えられるか。

(1)事業主体・体制に関する要件・基準・指標

例：地元事業者の参画など・・・

(2)事業内容に関する要件・基準・指標

例：地域課題の解決への関与・寄与など・・・

(3)事業化手続きに関する要件・基準・指標

例：地域住民との意見交換・調整など・・・

(4)その他

3. 具体化に向けた課題等について

- 2. のような「地域共生型事業」を具体化するために課題となる点はあるか。課題があるとすれば、どのような解決策（支援策）が必要か。

(1)コスト・ノウハウなど
事業面の課題・支援策

例：新電力ビジネスに関するノウハウの不足など・・・

(2)制度・政策面の
課題・支援策

例：地域課題に即したサービスを事業として実施する場合、法律や所管する官庁が異なり、調整に時間を要するなど・・・

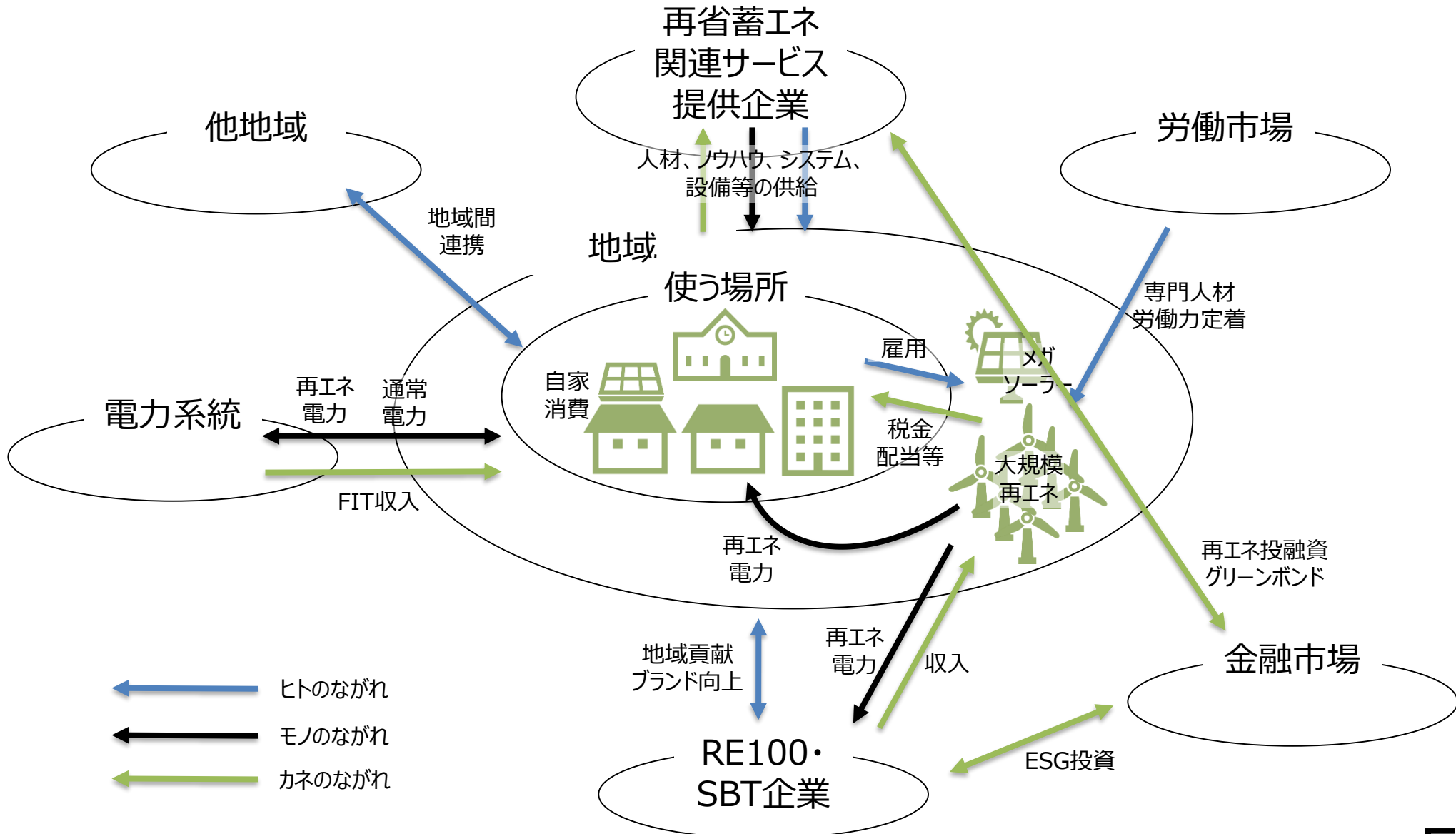
(3)人材・合意形成など
地域貢献面の
課題・支援策

例：地域の資本や人材が事業に関与する機会が限定されているなど・・・

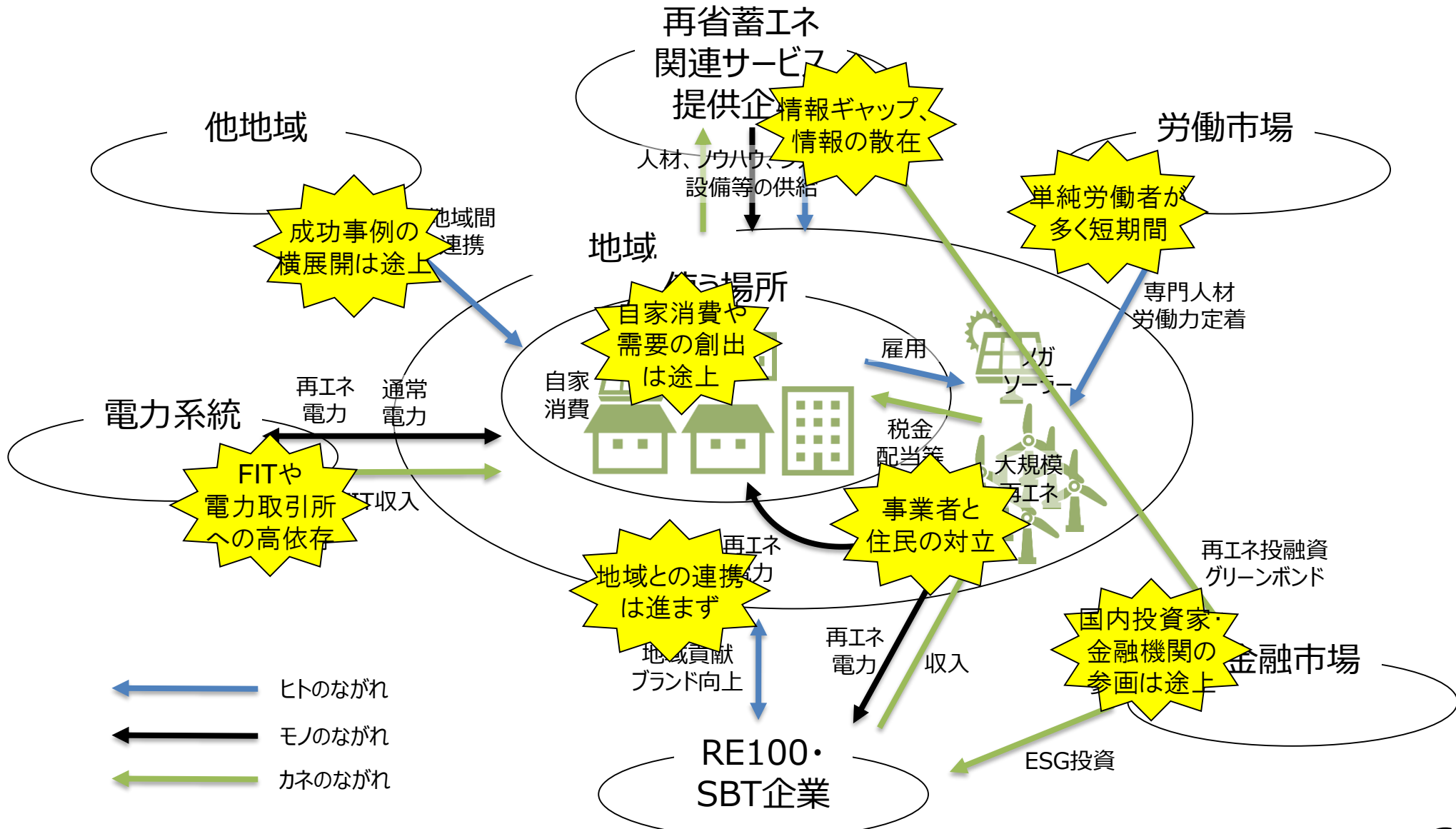
(4)その他

参考：第2回検討会資料および
第2回検討会で頂いた
ご意見と方向性との関係

地域再エネ事業を取り巻く状況

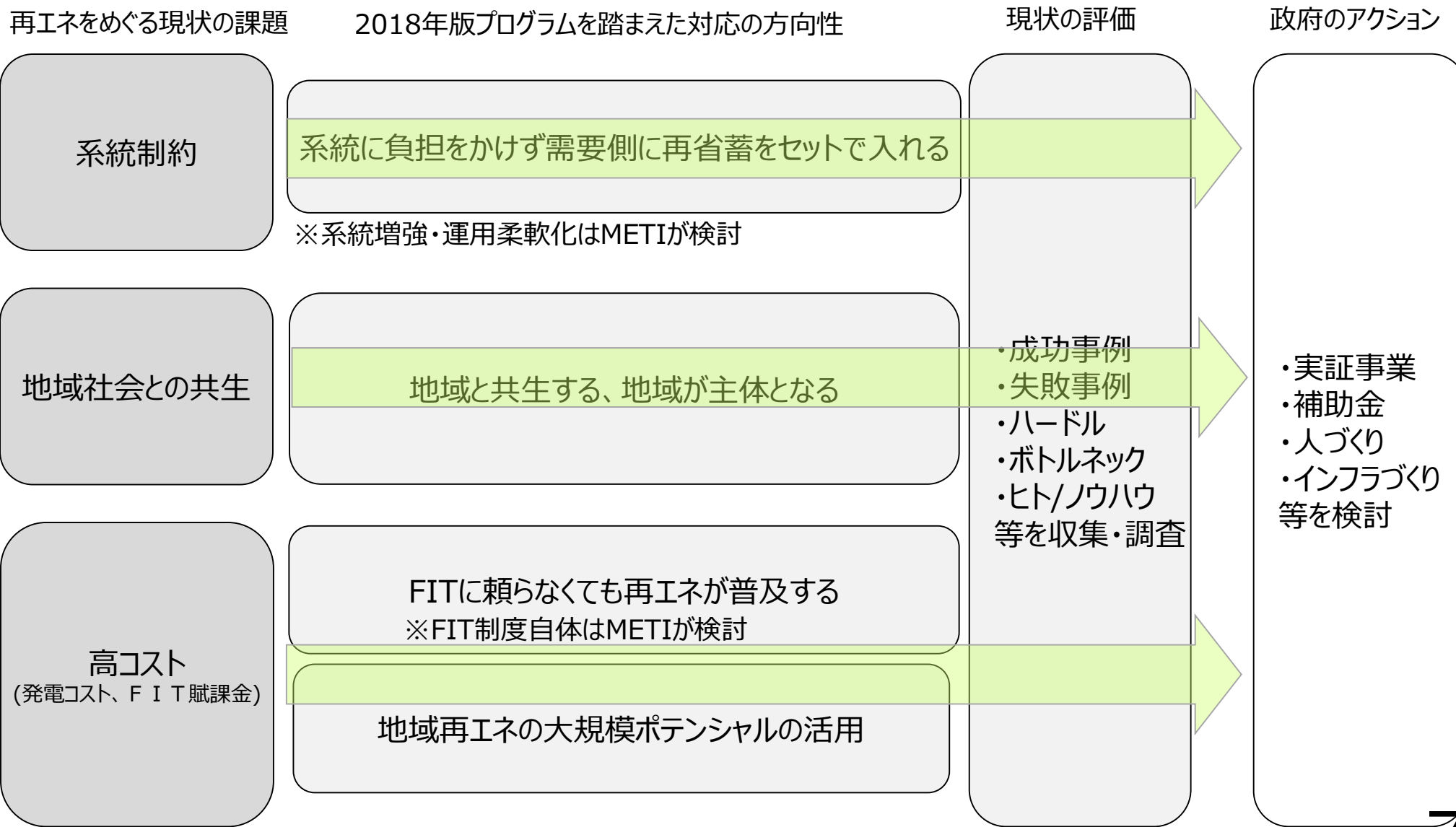


地域再エネ事業の周辺では課題が顕在化



- ← ヒトのながれ
- ← モノのながれ
- ← カネのながれ

本検討会での議論・見直しの方向性(案)



第1回検討会で頂いたご意見との関係

再エネをめぐる現状の課題

2018年版プログラムを踏まえた対応の方向性

それぞれの評価

政府のアクション

系統制約

系統に負担をかけず需要側で再省蓄セットで入れる

- 蓄エネは必要に応じて使うもの
- 「送配電」とひとくりにしない。それぞれで課題や解決策を議論
- 地域の消費者にも再エネ普及での役割を教育すべき
- 非FIT電源の自家消費を伸ばす視点が必要

量が多いため、主体別に分けるべき
事例や利用できる事業がまともについているのは良い

適切な再エネ導入ポテンシャルの把握・公表

地域社会との共生

地域と共生する、地域が主体となる

- サービス業としての地域再エネ事業を議論すべき
- 地域事業者と地方自治体の意識の醸成が必要
- 条例等により健全な再エネ開発の推進が必要

実効性に疑問 全体最適の視点を持つべき

地域事業者と金融機関を結びつけるプラットフォームが必要

高コスト
(発電コスト、FIT賦課金)

FITに頼らなくても再エネが普及する需要、ファイナンス

- 再エネ熱利用の観点も入れるべき
- 再エネ価値の整理が必要
- FIT無しでの資金調達の仕組みや地域金融機関への支援

実行スピードの観点を考慮すべき

成功事例に加えて失敗事例も紹介すべき

地域では資本とプレイヤーが不足

自治体の規模に応じた事例が必要

エンジニアリングでの成功事例やマッチングが重要

必要とされる技術はローテクの可能性

地域再エネの大規模ポテンシャルの活用

プレイヤーや資金調達について地元の関与を条件化することが必要

第2回検討会で頂いたご意見との関係

再エネをめぐる現状の課題

2018年版プログラムを踏まえた対応の方向性

それぞれの評価

政府のアクション

系統制約

系統に負担をかけず需要側で再省蓄セットで入れる

地域での
再エネ融通

系統安定技術の
標準仕様化

地域社会との共生

地域と共生する、地域が主体となる

卒FITの小規模発電
を取りまとめて活用

「地域貢献」の定義
の明確化

人材育成の
体制整備

失敗事例と
その要因も紹介すべき

「地産地消」概念の
重要性・効果
を整理すべき

国家・産業政策と
合わせた補助金
の整備

ゾーニングデータの
把握・公表

FITに頼らなくても再エネが普及する需要、ファイナンス

再エネ熱利用の
推進

発電量予測技術の
精緻化・高度化

国家・産業政策と
合わせた補助金

発電種別での
付加価値の
評価すべき

環境アセスの
合理化の検討

地域再エネの大規模ポテンシャルの活用

ゾーニングによる
データ蓄積

環境アセスの
合理化

高コスト
(発電コスト、FIT賦課金)